

☆いよいよ花粉症の季節へ 経口抗ヒスタミン薬の特徴☆

「花粉症の薬って、何が採用でしたか?」「眠くなりにくい薬は?」年が明けると、薬剤部への問い合わせが増えます。今回は、花粉症の薬物治療に処方される経口抗ヒスタミン薬についてまとめてみました。

現在、くしゃみ・鼻水といった花粉症治療には、眠気など副作用の少ない**ザイザル**、**エバステル**、**オロパタジン**など

「第二世代」の抗ヒスタミン薬を使うのが基本です。

ポララミン、**アタラックス-P**など「第一世代」は、第二世代の薬と比べて速効性に優れているため、痒みや腫れなどの急なアレルギー症状に適していますが、眠気や口渇など副作用が多く、緑内障や前立腺肥大など下部尿路閉塞疾患の既往がある患者は禁忌となっています。

抗ヒスタミン薬

ポララミンなど 第一世代 速効性がある	ザイザルなど 第二世代 副作用が少ない
----------------------------------	----------------------------------

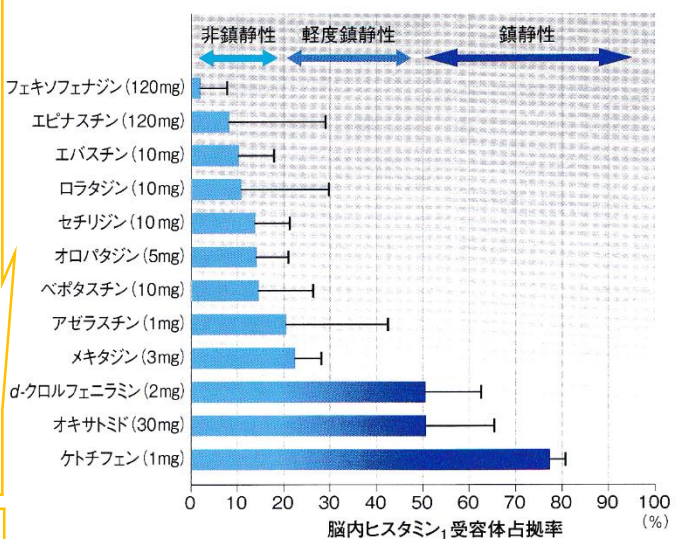
抗ヒスタミン薬の副作用として生じやすい眠気は、薬が皮膚や鼻などだけでなく、脳のヒスタミン受容体にも作用してしまう事で起こります。眠気の度合いは、脳内ヒスタミン₁受容体占拠率の結果より説明され(右図)、占拠率が低いほど眠気が起きにくいと考えられています。しかし効果・副作用の感じ方には個人差が大きく、服用して体にあった薬を探す事も大切です。花粉飛散前に初期治療として服用開始する事は、抗ヒスタミン薬が持つ作用(ヒスタミン非存在下でのインバーサゴニスト「逆作動薬」として、再発を予防する事が可能です。(赤字: 当院採用薬)

- 商品名**

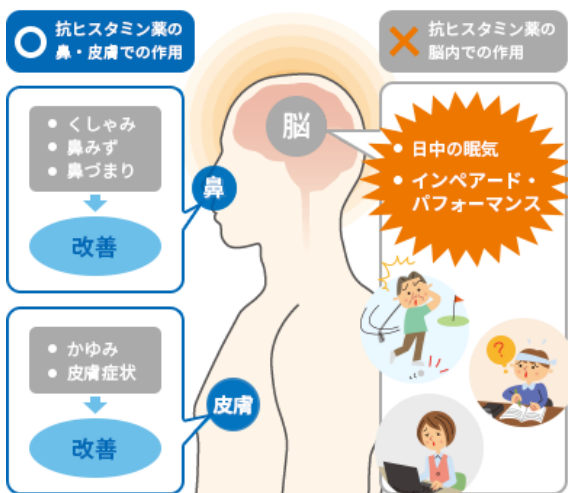
 - アレグラ
 - アレジオン
 - エバステル**
 - クラリチン
 - ジルテック
 - オロパタジン**
 - タリオン
 - アゼブチン**
 - ニボラジン
 - ポララミン**
 - セルテクト
 - ザジテン

ザイザル

図1 抗ヒスタミン薬の脳内ヒスタミン₁受容体占拠率



PETを用いて占拠率を定量化した結果の一覧。Expert Opin Drug Saf.2011 Jul 10:613-22.を一部改変して作成。これに加え、谷内氏は最近**レボセチリジン**が8.1%との数値を報告した(Expert Opin Drug Saf.2015 Feb 14:199-206.)。



また眠気を感じなくとも、無自覚のうちに集中力や判断力が低下してしまう(インペアード・パフォーマンス「自覚しにくい運動機能の低下」)ことがあります。そのため多くの抗ヒスタミン薬では薬を服用した後、自動車運転など危険な作業をすることは避けるよう注意喚起されています。市販薬を購入する際にも注意が必要です。

- 各薬剤別・添付文書での「自動車運転等」に関する記載**

禁止: **アゼブチン**、**ザイザル**、**オロパタジン**など

注意: **エバステル**、**アレジオン**、**タリオン**

記載なし: **アレグラ**、**クラリチン**など